

山口農試だより

グリーンウェーブ

6 号

平成9年4月
山口県農業試験場
山口市大内御堀1419
TEL (0839)27-0211
FAX (0839)27-0214

応援します 中山間地域農業



移動式足場での草刈作業

中山間地域では担い手の減少や高齢化により水田畦畔の管理が困難となり、急傾斜地水田の耕作放棄が増加し、農地保全上も大きな問題となっています。

そこで、農業試験場ではこうした現状に対応して次のような研究をしています。

- ① 畦畔に草丈の低い牧草などを播種して草刈りの作業回数を少なくする。
- ② 高い法面での草刈り作業は危険ですので安全に作業ができる移動式足場を試作する。
- ③ パソコンを活用して美しい農村の景観を保全するための計画手法を確立する。

(徳佐寒冷地分場 小田 俊光)



畦畔方面への牧草種子吹付け作業

中山間地域の花造りを応援します

中山間地域は谷間や傾斜地が多く、しかも冬の積雪などで栽培期間が限定される反面、夏期（特に夜間）は冷涼であり、この気象条件を活かした花の産地づくりが進められています。しかし、中山間地域における切り花栽培は、作型や肥培管理などが十分検討されないまま導入されている場合が多くなっています。

そこで徳佐寒冷地分場では、トルコギキョウとストックの秋出し作型の栽培技術について試験研究に取り組んでいます。

トルコギキョウは、品種・播種期、苗冷蔵栽培技術、直播き栽培技術について、ストックでは品種・播種期、育苗・定植の省力技術について技術開発を行っています。

（徳佐寒冷地分場園芸研究室 坂井 崇人）



秋出しのトルコギキョウの開花状況（9月）

無駄な肥料をやっていませんか？

「土づくり」のためには、堆肥の施用は欠かせません。そこで「有機の里づくり」に取り組んでいるむつみ村高俣地区で、雨よけトマト栽培の堆肥と施肥の関係について検討しました。

その結果、土壌からの窒素発現量を測定することによりトマトが必要とする窒素量の施肥割合が推定でき、堆

肥を連用している多くの農家で施肥量を控えても良いことがわかりました。

（地力保全研究室 徳永 哲夫）

土壌からの窒素発現量	10	15	20
トマトが必要とする窒素施肥割合	45	26	0

土壌からの窒素発現量（mg/100g）とトマトが必要とする窒素施肥割合（％）の関係

カメムシはなぜ大発生したか？

果樹を加害するカメムシの主な餌はスギやヒノキの毬果（実）で、6月になると越冬成虫は毬果に産卵し、次世代の幼虫はその汁を吸って成長します。

ただ、スギやヒノキは隔年結果するため、毬果の少ない年にはカメムシは餌不足となります。新たな餌を求めたカメムシは、近くの果樹園に飛来・吸汁し、落果や奇形果などの被害をもたらすことになります。平成8年は過去10年間で最も毬果量が少ない年であり、また越冬成虫も多かったため、カメムシ被害が各地で多発したと考えられます。

しかし、幸いなことにカメムシ類は果樹園では増殖で

きないため、今年はこのような大被害はないと予想されます。

（大島柑きつ試験場環境研究室 寺戸 宏一）



カンキツを加害するクサギカメムシとスギの毬果

できました！ 種なし長門ユズキチ

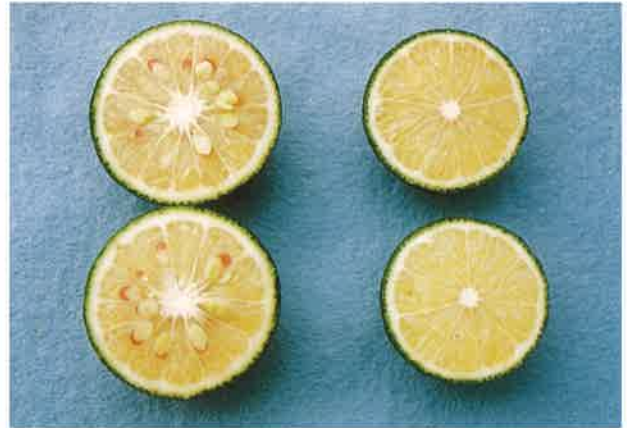
「長門ユズキチ」は、田万川町を中心に北浦地方で古くから栽培されている香酸かんきつです。樹齢100年以上と思われる古木が田万川町瀬尻に現存しています。露地栽培の主な香酸かんきつの搾汁は、8月中旬からですが、長門ユズキチは7月下旬と早くから可能です。しかし、露地栽培では果実に種子が20～30個と多い欠点があります。

そこで、次の方法で種なし果実にする技術確立しました。

本種は、不完全自家不和合性（完全ではないが、自分と同じ品種の花粉が授粉されたのでは受精しない性質）のため、昆虫によって外から花粉を持って来られないように、周囲を網で覆ったハウスで栽培すると、種なしにすることができます。しかし、このままでは着果率が低いため、ジベレリン50ppmを開花期から1週間の間に1回だけ散布します。この方法で栽培しますと、さらに、

露地栽培の果実に比べ搾汁可能な時期が早まり、7月上旬から10月下旬までの期間において果汁歩合が高く良い酢がとれました。夏の暑い盛りに、採れたての「長門ユズキチ」で酢を搾り、焼魚などをつまみに一杯どうですか？

（萩柑きつ試験場 福原 宏行）



左：普通栽培（種あり） 右：無核栽培（種なし）

何処でも、わずかな時間でできるメロンのウイルス病診断キット

メロンのウイルス病は栽培農家が恐れている重要病害の一つです。県内では、メロンえそ斑点病とメロンモザイク病の発生が多く見られます。

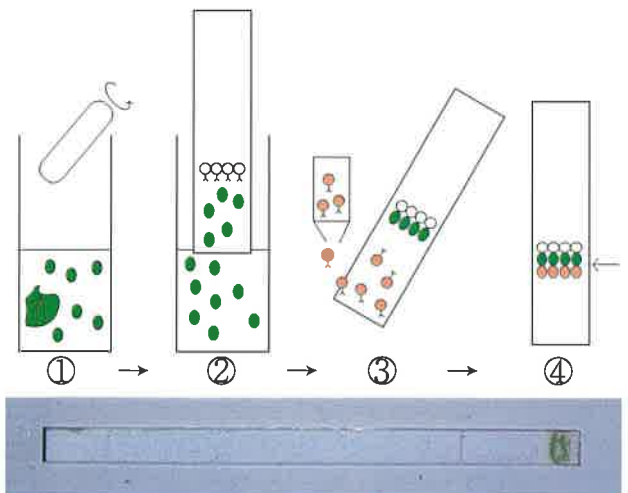
これらのウイルス病は防除対策が全く異なり、前者は土壌消毒による防除、後者はアブラムシの防除が必要です。従って病害を正確に診断することが重要になります。

迅速免疫ろ紙法（RIPA）を用いれば、これらウイルスをわずかな手間と時間でたちどころに診断できます。RIPAは以下の方法で行います。

- ① ウイルス様病徴部分の葉を摩砕用溶液中で潰し、粗汁液を作る。
- ② 検出用反応紙（リトマス試験紙のような形）の先端をわずかに粗汁液に浸し、液を吸い上げる。
- ③ 検定用赤色溶液を検出用反応紙の下から吸い上げるように数滴滴下する。

- ④ ウイルスがあれば、数分後に赤色のバンドが見える（写真）。

（病害虫研究室 井上 興）



RIPAによるウイルスの検出結果

研究室・分場紹介

ー徳佐寒冷地分場の巻ー

徳佐「寒冷地」分場といういかにも寒そうな名前聞いたことがおありでしょうか？観光リンゴ狩りで知られている阿東町徳佐にあります。

当分場は、普通作物研究室と園芸研究室に分かれ中山間地域の立地条件を活かした試験研究を行っています。普通作物研究室では、おいしい山口米の育種を初めとして稲、麦、大豆の試験を、園芸研究室では夏秋トマトやワサビといった中山間の特産野菜や本号でも紹介している花の試験を行っています。

また、平成7年度からは、両研究室が協力して表紙にあるような畦畔の省力管理技術の開発についての取り組みも始めております。

職員8名という小じんまりとした分場ですが、農家のみなさんと結びつけた試験研究を進め、中山間地域の農業がより活性化するように頑張っています。

(徳佐寒冷地分場園芸研究室 陶山 紀江)



徳佐寒冷地分場の面々

場内見学案内

本場

生物工学研究班

- ・胚珠培養によるユリ雑種の開花(5～6月)

普通作物研究室

- ・麦類奨励品種決定調査(4～5月)
- ・麦類の高品質安定栽培試験(4～5月)
チクゴイズミ、アサカゴールドの栽培試験
- ・水稻直播栽培試験(7～10月)
湛水直播、乾田直播の施肥試験等
- ・水稻奨励品種決定調査(8～10月)
- ・水稻有望品種の栽培特性試験(8～10月)
山口1号、ヒノヒカリ、あきたこまち等
- ・大豆奨励品種決定調査(8～11月)

牧草育種研究室

- ・転換畑を活用した永年生牧草の短年利用体系の確立(通年)
～永年生どうしの混播試験～
～永年生牧草への一年生牧草の追播適応性試験～
- ・えん麦とクリムソクローバーの混播試験(4～5月)
- ・トウモロコシの品種比較試験(6～8月)
- ・ソルガムの品種比較試験(6～10月)
- ・イタリアンライグラスもち病抵抗性検定(9月)
- ・えん麦の品種比較試験(9～11月)
- ・イタリアンライグラスの品種比較試験(11～5月)

野菜研究室

- ・タマネギセル成型苗移植栽培における育苗栽培管理技術の確立(5月中・下旬)
- ・キャベツセル成型苗移植栽培における育苗栽培管理技術の確立(8月中・下旬)
- ・ネギ、イチゴの養液栽培の状況(6～9月)
- ・「はなっこりー」の秋播き栽培(4～5月)
- ・「はなっこりー」の夏播き栽培(9月)
- ・ズッキーニを中心としたベコホ「チャ」の生育状況(6～9月)

花き研究室

- ・トルコギキョウ2度切り栽培技術の確立(4～6月)
- ・育成ユリの球根促成栽培技術の確立(4月)
- ・母の日切りカーネーション栽培技術の確立(4～7月)
- ・バラ、ガーベラCO. 施用効果試験(4～9月)
- ・アルストロメリア促成栽培技術の確立(4～5月)

落葉果樹研究室

- ・ナシの簡易被覆栽培(4～8月)
- ・ブドウのY字仕立てによる軽作業化(6～9月)
- ・モモの品種比較(7～8月)
- ・イチジク「蓬萊柿」のハウス栽培(7～9月)
- ・ナシの品種比較(8～9月)
- ・クリの収穫省力化(収穫ネット、植調剤)(9月)

徳佐寒冷地分場

普通作物研究室

- ・麦類の品種・栽培試験(4～6月)
- ・畦畔への導入作物の栽培試験(4～9月)
- ・良食味米の品種・栽培試験(7～9月)

園芸研究室

- ・促成イチゴの品種試験(4～5月)
- ・ワサビのハウス促成栽培試験(4～5月)
- ・雨よけトマトの栽培試験(7～9月)
- ・トルコギキョウの品種・栽培試験(9月)
- ・ストックの品種・栽培試験(9月)

大島柑きつ試験場

- ・柑きつ園の省力無人防除(5～10月)
- ・新品種の施設栽培(周年)
- ・フェスク類の探索によるかんきつ園地の雑草管理の省力化(6～9月)

萩柑きつ試験場

- ・夏ミカンの花と優良系統の保存(5月中旬)
- ・CTV弱毒接種中晩柑類の干渉効果の判定(5～9月)
- ・ビワ品種比較試験の結果状況(6月)
- ・長門ユズキチの無核化(8～9月)
- ・カキサビダニの被害と防除(8～9月)
- ・柿「西条」の系統選抜試験の結果状況(9月)

美東原種農場

- ・水稻新品種「山口1号」の品種特性等(8月下旬～9月上旬)

問い合わせ先(電話)

本場	(0839) 27-0211
徳佐寒冷地分場	(08395) 6-0016
大島柑きつ試験場	(08207) 7-1019
萩柑きつ試験場	(0838) 22-2474
美東原種農場	(08396) 2-0551